

「勸修寺文庫」のふるさとを訪ねて

中央図書館事務部 次長 鹿田 昌 司

中央図書館に「勸修寺文庫」というコレクションがある。京都市山科区に所在する真言宗山階派の大本山「勸修寺」(写真1)に伝わる仏典126点が収められており、24時間温度管理された書庫に保管されている。1979年に刊行された『全国図書館案内』*1の近畿大学中央図書館の頁には7つの文庫が紹介されているが、そのトップにこの「勸修寺文庫」が配置されており、当時当館で一番のコレクションであったことが窺える。しかしながら、現在不明な点が多く、本誌46号(2014年3月発行)の文芸学部教員による調査*2でも解明できていないことが報告されている。そこで、平成26年3月から5月にかけて真言宗山階派大本山「勸修寺」へ出向いて住職に話を伺うなどの調査を行った。結果、真言宗山階派の宗会において「近畿大学図書館に仏教師弟養成のために『山階文庫』を賛助」することが決定されたなど、新たな事実が判明した。本稿はその結果の報告であるが、誤解釈のご指摘や新事実のご教示があれば是非いただきたい。

勸修寺への電話聞き取り

平成26年4月10日に勸修寺の筑波常遍住職と電話が繋がり、本学所蔵の「勸修寺文庫」について伺った。次の点について確認でき、翌日訪問の約束をした。

- ・筑波住職(写真2)は昭和10年生まれで、昭和28年に18歳で小僧として勸修寺に入った。
- ・当時、近畿大学初代総長の世耕弘一先生及び監事の野口房雄氏と真言宗山階派宗務長(大本山勸修寺事務長)の竹浪正義(たけなみせいぎ、昭和38年没)氏(写真3)が非



写真2



写真1



写真3

常に懇意にしており、京都・大阪・東京で頻繁に会われていた。当時の勸修寺住職は石山寺の住職である鷲尾光遍（わしおこうへん）氏が兼ねていたが、一切のことは竹浪事務長に任されていた。

- ・昭和25年若しくは26年に「山階文庫」（後に勸修寺文庫と改称されたと思われる）を近畿大学に寄贈したと聞いている。

勸修寺への訪問聞き取り

4月11日、図書総務課の門課長と二人で勸修寺の筑波常遍住職を訪ね、本学所蔵「勸修寺文庫」寄贈の記録と経緯について聞き取りをした。招き入れられた応接の机の上には、同寺保管の宗会議案書と本学関係者（総務部長：岩城由一氏、校友課係長：安達隆一氏）の名刺のコピーが用意されていた。昭和27年3月に行なわれたという真言宗山階派の第7回宗会議案書（写真4）の議案第4号には「近畿

大学図書館に佛教師弟養成のため山科文庫開設賛助の件」と記されていた。同寺には宗会の議事記録が残っていなかったが、宗会には「六大新報社」、「中外日報社」、「文化時報社」、「高野山出版社」などの宗教新聞社が取材に来ており、速記を取っていたという情報と、当時の新聞記事を確認してはという助言をいただいた。筑波住職曰く、当時の真言宗山階派宗務長（大本山勸修寺事務長）の竹浪正義氏と本学の野口房雄監事が京都～大阪を頻繁に行き来するほどの仲であったこと、そのような交流の中で、世耕弘一初代総長とも交流があったようである。今回の訪問にあたり、本学所蔵「勸修寺文庫」の一部を撮影した写真を持参し、現状の報告をするとともに疑問点を質問させていただいた。主な質問と回答は次のとおりである。

（近畿大学）宗会の議案にある「賛助」というのは、どのような意味でしょうか。

（勸修寺）「賛助」いうのは、ご寄進させていただいたということでしょう。

（近）本学所蔵「勸修寺文庫」の典籍には表紙などに「観智院」や「仁和寺」などの寺院名が見受けられますが、勸修寺に所蔵されていたのでしょうか。

（勸）勸修寺文庫の書物に見られる観智院や仁和寺など、勸修寺以外の寺名の印・書き込みについては、「野沢諸流諸方血脈大系概略図（常遍 誌）」にあるように、真言宗にはいくつもの諸流諸方に分かれており、法要の際の道具の貸し借りははじめ、書物の行き来は十分考えられる。おそらく勸修寺から寄進させていただいた典籍かと思われる。

（近）「堀内図書館蔵」のラベルが見受けられますが、どのようなことが考えられるのでしょうか。

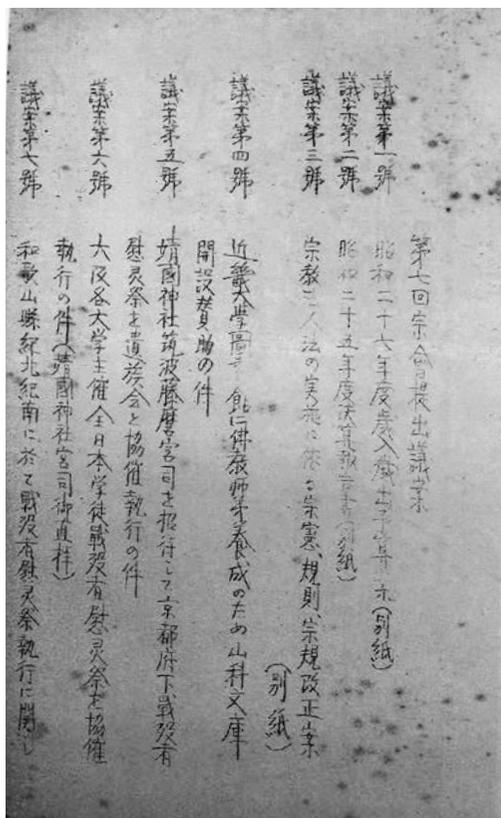


写真4

（勸）市中に流れていたものを勸修寺やその門徒が購入し、勸修寺の蔵書としたと考えるのが自然でしょう。

最後に参考文献として次の書籍を紹介していただき、寺内見学の後帰路についた。

- ① 仏書解説大辞典. 大東出版社, 1964 - 1978、
- ② 密教大辞典. 法蔵館, 1969 - 1983、
- ③ 国訳聖教大系 東密部. 国書刊行会, 1974 - 1975、
- ④ 真言宗全書. 続真言宗全書刊行会, 1977 - 1978、
- ⑤ 真言密教事相概説 四度部. 同朋舎, 1986

宗会記事の新聞確認

勸修寺の筑波住職に助言をいただいた新聞を確認する中で、「六大新報」の記事を国立国会図書館から取り寄せた。昭和27年3月5日号の4頁には次のとおり記載されており、「近畿大学図書館に仏教師弟養成のために『山階文庫』を賛助」することが決定されたことがわかる。

「六大新報」昭和27年3月5日、4頁

山階派定期宗會

山階派第七回定期宗會は去る廿四日午前十一時より大本山勸修寺に於て開會、出席議員は、西田覺善、(略)の諸師、當局側は、竹浪宗務長、(略)の各師出席して開會、(略)提出議案の説明に入った。議案は左の通りであった。

第一號～第三號 (略)

第四號 近畿大學圖書館に佛教師弟養成の為山階文庫開設賛助の件

第五號～第八號 (略)

中田師、二條師等の賛成發言あり、一同當局に完遂方を希望して、以上の議案はそれぞれ可決決定議となり圓滿裡に午後二時管長臨席の下に閉會式を舉げた

以上のことから、「勸修寺文庫」は昭和27年2月24日以降に勸修寺から近畿大学図書館に仏教師弟養成のため「山階文庫」として寄

贈されたものであることは間違いないと考える。しかしながら、昭和39、40年に刊行された「浄厳大和尚行状記」、「浄厳・蓮体関係資料目録」、「浄厳関係資料目録」の3点が「勸修寺文庫目録（近畿大学中央図書館）」に記載されている点についての手掛かりは、今回の調査では見つけられなかった。引き続き調査継続の必要がある。

今回の訪問では、当時の近畿大学と勸修寺の交流を知る筑波住職から直接お話を伺うことができ、大変有意義な訪問となった。残念ながら、現在近畿大学には佛教師弟養成の課程は存在していないが、この貴重な資料の保存に怠ることなく、研究者の求めに応じて提供していかねばならないということを再認識する機会となった。筑波住職には、ご多忙の中での聞き合わせのみならず、重要文化財に指定されている書院の壁画や桜が満開の庭園を見せていただき、本誌上でも感謝を申し上げます。

参考文献

*1 書誌研究懇話会編（1979）『全国図書館案内』250 - 252. 東京：三一書房.

*2 藤巻和宏（2014）「近畿大学中央図書館『勸修寺文庫』瞥見」『香散見草』1 - 5. 東大阪：近畿大学中央図書館.